

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100418		
法人名	株式会社ライフテラス		
事業所名	グループホーム憩いの生活館-いっく-		
所在地	高知市一宮東町一丁目26-3		
自己評価作成日	平成24年4月30日	評価結果 市町村受理日	平成24年7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者様・家族様・職員も笑顔で」を理念に利用者様が安心して楽しいひと時を送れるよう努めることを信条としております。利用者様の声に耳を傾けるだけでなく、ご家族のみなさまとも連携を取り、お一人おひとりに合ったサービスをご提供を心がけています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=3990100418&SCD=320&PCD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成24年6月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所のすぐ近くには小学校があり、徒歩圏内にも幼稚園、高等学校、集合住宅などが点在しているが、近所に個人住宅は少ない。昨年9月に開設したばかりで、管理者を中心に職員は試行錯誤を繰り返しながら、より良いサービスの提供ができるように努力している。代表者の強い思いである「笑顔」をサービスの基本としており、利用者に対しても、家族に対しても、また地域住民に対しても「笑顔」を忘れず、事業所が利用者にとって暮らし易く、家族や地域にとって親しみやすい空間となることを目指している。

自己評価および外部評価結果

ユニット名: やまもも

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をホールに掲示し、それに基づき日常業務の中で伝え啓発を行っている。	「ゆっくり、いっしょに、楽しみながら、一人一人のその人らしさを大切に生活を送る。」という理念を作り、地域で培ってきた一人ひとりの利用者の生活を大切にして、笑顔で、楽しい毎日を過ごせるように支援している。理念はホールに掲示し、ユニット会や日常業務の中で伝え、確認し合い、日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の幼稚園を招待しクリスマス会を行うなど地域交流を図っている。また散歩や近隣スーパーへ職員と買い物に出掛けている。	事業所は、近所の幼稚園を招待してクリスマス会を開催したり、散歩や買い物の時に住民と話をすることはあるが、所属する徳谷地区の地域活動があまり活発ではないとのことで、地域の行事等に参加することはほとんど無い。また、事業所の地域交流室で毎週行っているいきいき百歳体操に参加する地域住民も5名程度であり、普段事業所に立ち寄ってくれる住民も少ない。	地区の活動が活発でなく、隣接する個人住宅が1軒という環境ではあるが、近くの小学校に働き掛け、下校時に立ち寄りてもらったり、学校行事を通じて保護者との繋がりを作るなど、積極的に地域との交流を促進する取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎週金曜日には地域交流室を開放しいきいき百歳体操を実施し地域住民の参加を促し入居者様も共に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施し、行事・事故・入退居者・入院・避難訓練などの報告を行っている。また実地指導等の結果報告を意見交換している。	運営推進会議では、行事、入退去、事故報告、防災訓練などの報告以外にも、実地指導の結果を受けた話し合い等も行っている。また、確かな成果がまだ出ていないものの、事故対策等についても検討し、サービスの質の向上に活かそうと努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ、職員が市の担当者を訪問し相談を行う体制にしている。	地域包括支援センターの職員とは、相談や質問事項があれば運営推進会議の時以外でも連絡を取っている。介護保険担当の職員とも3か月に1回は連絡を取り、一宮地区の現状を聞くなどして、市町村との協力関係を築くよう努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアについて開設時研修会を開催し、身体拘束しないケアの外部研修へ参加している。	開設後、骨折を含む事故が多かったことから、原因究明を目的に、各ユニット入口から共用部分を見渡せる監視カメラを設置している。また、転倒の予防を速やかに行うため、転倒等が多い利用者の居室に家族の了解を得てセンサーを設置している。研修は年間計画を立てて受講しており、受講者はユニット会で報告し、職員全員に周知徹底して、身体拘束をしないケアに努めている。	事故の再発防止のためとはいえ、利用者が普段生活する空間に監視カメラが設置されているということは、利用者の人権の尊重及び身体拘束をしないケアの面から好ましいことではないので、事故の原因究明が終わればすぐに撤去されたい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について開設時研修会を開催し、尊厳を考える研修へも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設で実際に成年後見人を立てている方の説明を職員に行っている。より詳しく理解を深められるよう研修会へ参加できるよう計画をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者から本人様または家族様へ直接説明を行い疑問点を尋ね、説明し納得できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、運営推進会議、家族会、面会時に意見を聞き、要望などを聞き入れる体制を作っている。	今年4月に第一回の家族会総会を実施している。次回は夏祭りの時に予定しており、今後、家族同士での食事会等家族が打ち解けて話し合える機会を持つことも検討している。家族からの意見は、利用者の外出等を含む行事に係ることが多く、日頃の屋外活動の実施やドライブ等の行き先を決定する際に採り入れるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ユニット会を行い意見、要望等を聞ける場を設け、相談しやすい雰囲気を作っている。	毎月のユニット会で職員から意見や要望を聞くようにしている。職員からは利用者のケアの仕方についての意見が多く、水分量の補給が少ない利用者にゼリー食で水分補給を補うようにするなど、出された意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握できるようユニットリーダーから聞き取りを行い問題点を改善し業務が円滑に行えるように環境を整備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を積極的に働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北部のグループホームの連絡会に参加し同業者と情報交換、意見を聞いたり相談できる場を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い生活暦の把握や要望を聞き入れ、不安がないような対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に相談・事前面談を行い、困りごとや要望を聞き入れ、話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に話を聞き入れ、必要な支援について相談・話し合いを行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様が一緒に料理や掃除などの日常生活を過ごす事により、職員も入居者さんから生活の知恵を教えてもらっている。また親しみのある声掛けを心がけて家族のような関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と一緒に過ごす時間を大切にしながら家族の気になる事を聞いたり様子伝え相互に情報共有して入居者・家族が選択し決定することを大切にサービスを提案している。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近所の散歩やスーパーへの外出を行っている。また手紙やはがきをやり取りしたり、知人・友人などが気兼ねなく話せるよう雰囲気作りに努めている。</p>	<p>事業所の近隣出身の利用者が少ないことから、昔からの馴染みの場所を訪れたり、知人等を訪問することはほとんどないが、定期的に事業所を訪問してくれる知人や兄弟がおり、いつでも気兼ねなく来てもらえるよう心配りをしている。また、近くの神社やスーパーに行く機会を増やし、新たな馴染みの場所を作るように努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事やくつろぎの場所や席順を決め過ごしてもらっている。また入居者間に職員が入り表情を見ながら会話し関わりが持てるよう努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス利用終了した利用者の家族とも可能な限り関係を維持している。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>これまでの暮らし方を把握し、本人らしい生活が送れる様努めている。要望意見を聞き入れながら職員間で情報交換し検討している。</p>	<p>入居時に、利用者の生活歴や入居に至った経緯等を把握し、記録に残している。入居後も普通の生活の中で出てくる些細な言葉や行動等から本人の思い等を把握するとともに、意向の把握が困難な利用者の場合は家族から話を聞き、ケアに反映させるようにしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人との会話・家族・知人・友人等から情報収集をし、今までの生活の様子を把握できるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を観察し、本人の出来る事・出来ない事の把握・理解に努め、職員間で意見交換を日常的に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の意見交換。本人・家族と意見交換を行い要望を取り入れた介護計画を作成し定期的に見直しを行っている。	本人からは普段の生活の中で情報を得、家族とは面会時や電話等で話し合い、それらに基づいてカンファレンスを行って、3か月ごとに見直しをしている。利用者の状態が変化した時はその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有しながら実践し気づいた事があれば見直ししている。入居者に変化があった場合は、担当者会議を行い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして利用者様にとって負担となる受診や入院の回避、入院時は退院支援室等との連絡を行っている。またNPOの訪問理容も受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区会長や家族様と運営推進会議を行っている。地域の幼稚園・小学校との交流が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携体制を図り、希望の病院受診を行えるよう体制が整っている。	ほとんどの利用者が、月2回事業所指定のクリニックの往診を受けている。その他の本人や家族が希望する病院の受診は原則家族が付き添っており、家族の対応が困難な場合には職員が支援している。往診時は事業所の看護師が同席し、家族対応の受診の際も内容をケース記録に残し、情報の共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を看護師に報告相談し、変化のある場合は24時間体制で相談し指示が受けられよう整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提供し、日頃の状態を電話連絡や直接入院先へ出向き、担当看護師や医師等と家族の意向を含めて話し、地域連携室等と連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様に「重度化した場合における対応に関する指針」を説明し、同意を得ている。医療と24時間体制での連携を確保しチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合や終末期の指針を説明し、同意も得ている。看取りに向けての話し合いはその都度行うことにしており、看護師による24時間体制での連携を確保して、チームで支援できる体制をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルや、緊急時のフローチャートをいつでも見える場所に掲示し、敏速な対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練を消防立会いのもと行っている。今後も定期的実施する予定である。	消防署の協力を得て火災訓練を実施している。訓練に際して住民に声かけを行っているが、参加は得られていない。非常用食料は2階の収納庫に2か所に分けて備蓄されている。避難経路等も職員に周知している。	隣接する小学校が災害時の避難場所になっているが、夜間の避難は夜勤者だけでは非常に困難であるため、地区や行政と協力して合同の避難訓練を行う等、最悪の事態に備えた訓練を実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの「思い」「価値観」「生活歴」を把握した上で笑顔で日々の生活を送れるよう注意し対応している。	利用者のプライドやプライバシーを損ねない言葉遣い等に気を配るのはもちろん、利用者個々に異なる価値観やこだわりにも配慮するように心掛けて支援している。トイレの使用方法一つをとっても、ドアを開けておかなければ使用できない利用者もいれば、それを不快に思う利用者もいる。そのような場合、可能な限り視線を遮るような工夫をしたり、職員が目隠しとなって他の利用者を誘導するなどして、出来るだけ個々の利用者の意向を採り入れた支援ができるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決めるを大切にし本人希望の飲み物、食事内容の選択、趣味を活かした遊び、運動が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを保ち可能な限り共同生活の適用に心がけ1日の流れが保てる様に支援し入床・起床も本人の希望に添える様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の要望を聞き服を選んだり購入したりしている。家族と相談し、パーマ・カラーなど好きな髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理への参加を促し盛り付け配膳と一緒にしている。週1回の自由食では入居者に希望を聞き一緒に献立を考え自身で食べたい物を選び楽しみの支援をしている。出勤職員は入居者と共に会話をしながら食卓を囲んでいる。	業者の献立と食材を利用しているが、食事の盛り付けや配膳などは可能な限り利用者も手伝って準備している。また、週1回は自由食にして利用者の好みを聞き、献立に取り入れ、一緒に量販店まで買い出しに行くなど、利用者が出来るだけ食事を楽しみ、作業に参加できるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の配食メニューが配達され偏らない食事が提供できている。毎週金曜日の自由食でも入居者の希望を踏まえ検討している。毎食摂取量・水分量を確認し記録し、摂取量が少ない方にはこまめに摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを促し、毎晩義歯の洗浄を行っている。本人の要望を聞きながら歯科医の訪問診療も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の無い方に対して排泄のパターンを把握し、時間誘導を行い自力排泄を促している。また表情や行動などから尿便意を読み取り誘導を行っている。	排泄の自立ができていない利用者については個々の排泄パターンや習慣を把握して、定時誘導などを行い、トイレでの排泄ができるように支援している。尿取りパットやリハビリパンツを使用している利用者は12名で、他の利用者は布パンツのみであり、オムツを使用している利用者はいない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘ぎみの方には水分を多く促し水分摂取に拒否が強い時はゼリーや乳製品を促している。また看護師と相談し運動や下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人から入浴のアセスメントをとり希望を聞き好みの時間で入浴している。拒否があれば無理強ひせず日を変えて対応している。一般家庭と同じ雰囲気を保つように心がけている。週2回は入浴確保。	基本的な入浴時間帯は決めているが、利用者が希望する場合は午前でも午後でも入浴できるように支援している。入浴回数は週2回以上を確保し、入浴を拒否する利用者には、事前に入浴の日時を伝え予定を示すことで、予定の日時になれば利用者の方から言ってくるような工夫をするなど、個々に沿った対応を考えて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中居室での休息を希望される方には誘導を行っている。定期的に布団干しシーツ交換を行ったり。灯りの調整を行い入眠しやすい環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々がどのような薬を飲んでいるか職員に周知するよう促し症状の変化の確認に努めている。服薬時には他職員と一緒に確認し名前・日付・朝昼夕を声に出して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみ・食事作り・掃除・買い物・ラジオ体操・近所の散歩などに出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行くときは一緒に出掛けたり、家族が一緒に出掛けるときもある。月に1回は遠出の外出を計画し実施している。	日常的に、近所の散歩や量販店への買い出しに出かけ、事業所内の庭の畑で外気に触れるようにも心掛けている。遠方へのドライブ等は月に1回実施しており、植物園や公園などに出掛け、正月は初詣にも出掛けている。車いすの利用者が3名おり、日常の散歩も含め一緒に出掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の入居者様にはお金を持ちたい気持ちを尊重し、家族の了承を得て、自己理解できる程度のお金を持っていただいている。買い物時には自身で払えるよう声掛け等行い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の支援をしている。手紙を書いたり、年賀状など便りを書くように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事を楽しめる環境が作れるように、3食の調理へ参加してもらい、まな板をたたく音や、食事の香りを嗅いでもらい生活感を感じてもらっている。また近所を散歩するなどし季節を肌で感じてもらえるよう支援している。	玄関、廊下、居間のスペースに余裕があり、掃除も行き届いている。机や椅子の配置については、利用者にとって動き易く、安全で、共用空間としても使い易くするために、ユニット会で話し合い、より良いものになるように、開設当初からは何回か変更している。ソファやブロック畳も置き、利用者がくつろげるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファや畳のスペースを設置し、自分のくつろぐ空間が保てるようにしている。気の合う物同士、隣あわせの席に座るなどの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や飾り物。時計・仏壇・寝具を使用している。生活スタイルに合わせたその人らしい居室作りをしている。	利用者の居室には、各自が持参したタンスやいす等を配置し、壁にも好みに応じた写真、カレンダー、雑誌の切り抜き等を飾るなど、個人の好みを活かした居室にしている。また、希望に応じてベッドの向きを変えたり、固いベッドが希望の利用者に畳ベッドを用意するなど、利用者の希望を採り入れた工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所は車椅子でも使いやすいような構造にし浴室・トイレなど手すりなど設置し、シンク・調理台・手すり・トイレを入居者様が使いやすい高さになっている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名: ゆず

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をホールに掲示し、それに基づき日常業務の中で伝え啓発を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近所の幼稚園を招待しクリスマス会を行うなど地域交流を図っている。また散歩や近隣スーパーへ職員と買い物に出掛けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎週金曜日には地域交流室を開放しいきいき百歳体操を実施し地域住民の参加を促し入居者様も共に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施し、行事・事故・入退居者・入院・避難訓練などの報告を行っている。また実地指導等の結果報告を意見交換している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ、職員が市の担当者を訪問し相談を行う体制にしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアについて開設時研修会を開催し、身体拘束しないケアの外部研修へ参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について開設時研修会を開催し、尊厳を考える研修へも参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設で実際に成年後見人を立てている方の説明を職員に行っている。より詳しく理解を深められるよう研修会へ参加できるよう計画をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者から本人様または家族様へ直接説明を行い疑問点を尋ね、説明し納得できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、運営推進会議、家族会、面会時に意見を聞き、要望などを聞き入れる体制を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ユニット会を行い意見、要望等を聞ける場を設け、相談しやすい雰囲気を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握できるようユニットリーダーから聞き取りを行い問題点を改善し業務が円滑に行えるように環境を整備している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を積極的に働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北部のグループホームの連絡会に参加し同業者と情報交換、意見を聞いたり相談できる場を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い生活暦の把握や要望を聞き入れ、不安がないような対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に相談・事前面談を行い、困りごとや要望を聞き入れ、話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に話を聞き入れ、必要な支援について相談・話し合いを行い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者様が一緒に料理や掃除などの日常生活を過ごす事により、職員も入居者さんから生活の知恵を教えてもらっている。また親しみのある声掛けを心がけて家族のような関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と一緒に過ごす時間を大切にしながら家族の気になる事を聞いたり様子伝え相互に情報共有して入居者・家族が選択し決定することを大切にサービスを提案している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の散歩やスーパーへの外出を行っている。また手紙やはがきをやり取りしたり、知人・友人などが気兼ねなく話せるよう雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やくつろぎの場所や席順を決め過ぎてもらっている。また入居者間に職員が入り表情を見ながら会話し関わりが持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了した利用者の家族とも可能な限り関係を維持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らし方を把握し、本人らしい生活が送れる様努めている。要望意見を聞き入れながら職員間で情報交換し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話・家族・知人・友人等から情報収集をし、今までの生活の様子を把握できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を観察し、本人の出来る事・出来ない事の把握・理解に努め、職員間で意見交換を日常的に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間の意見交換。本人・家族と意見交換を行い要望を取り入れた介護計画を作成し定期的に見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報を共有しながら実践し気づいた事があれば見直ししている。入居者に変化があった場合は、担当者会議を行い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして利用者様にとって負担となる受診や入院の回避、入院時は退院支援室等との連絡を行っている。またNPOの訪問理容も受けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区会長や家族様と運営推進会議行っている。地域の幼稚園・小学校との交流が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携体制を図り、希望の病院受診を行えるよう体制が整っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態を看護師に報告相談し、変化のある場合は24時間体制で相談し指示が受けられよう整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを提供し、日頃の状態を電話連絡や直接入院先へ出向き、担当看護師や医師等と家族の意向を含めて話し、地域連携室等と連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様に「重度化した場合における対応に関する指針」を説明し、同意を得ている。医療と24時間体制での連携を確保しチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルや、緊急時のフローチャートをいつでも見える場所に掲示し、敏速な対応が出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災避難訓練を消防立会いのもと行っている。今後も定期的実施する予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの「思い」「価値観」「生活暦」を把握した上で笑顔で日々の生活を送れるよう注意し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が決めるを大切にし本人希望の飲み物、食事内容の選択、趣味を活かした遊び、運動が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを保ち可能な限り共同生活の適用に心がけ1日の流れが保てる様に支援し入床・起床も本人の希望に添える様努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族の要望を聞き服を選んだり購入したりしている。家族と相談し、パーマ・カラーなど好きな髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理への参加を促し盛り付け配膳と一緒にやっている。週1回の自由食では入居者に希望を聞き一緒に献立を考え自身で食べたい物を選び楽しみの支援をしている。出勤職員は入居者と共に会話をしながら食卓を囲んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の配食メニューが配達され偏らない食事が提供できている。毎週金曜日の自由食でも入居者の希望を踏まえ検討している。毎食摂取量・水分量を確認し記録し、摂取量が少ない方にはこまめに摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを促し、毎晩義歯の洗浄を行っている。本人の要望を聞きながら歯科医の訪問診療も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の無い方に対して排泄のパターンを把握し、時間誘導を行い自力排泄を促している。また表情や行動などから尿便意を読み取り誘導を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘ぎみの方には水分を多く促し水分摂取に拒否が強い時はゼリーや乳製品を促している。また看護師と相談し運動や下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人から入浴のアセスメントをとり希望を聞き好みの時間で入浴している。拒否があれば無理強いせず日を変えて対応している。一般家庭と同じ雰囲気を保つように心がけている。週2回は入浴確保。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中居室での休息を希望される方には誘導を行っている。定期的に布団干しシーツ交換を行ったり。灯りの調整を行い入眠しやすい環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々がどのような薬を飲んでいるか職員に周知するよう促し症状の変化の確認に努めている。服薬時には他職員と一緒に確認し名前・日付・朝昼夕を声に出して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ・食事作り・掃除・買い物・ラジオ体操・近所の散歩などに出掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行くときは一緒に出掛けたり、家族が一緒に出掛けるときもある。月に1回は遠出の外出を計画し実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の入居者様にはお金を持ちたい気持ちを尊重し、家族の了承を得て、自己理解できる程度のお金を持っていただいている。買い物時には自身で払えるよう声掛け等行い支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の支援をしている。手紙を書いたり、年賀状など便りを書けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事を楽しめる環境が作れるように、3食の調理へ参加してもらい、まな板をたたく音や、食事の香りを嗅いでもらい生活感を感じてもらっている。また近所を散歩するなどし季節を肌で感じてもらえるよう支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファや畳のスペースを設置し、自分のくつろぐ空間が保てるようにしている。気の合う物同士、隣あわせの席に座るなどの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や飾り物。時計・仏壇・寝具を使用している。生活スタイルに合わせたその人らしい居室作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所は車椅子でも使いやすいような構造にし浴室・トイレなど手すりなど設置し、シンク・調理台・手すり・トイレを入居者様が使いやすい高さになっている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない